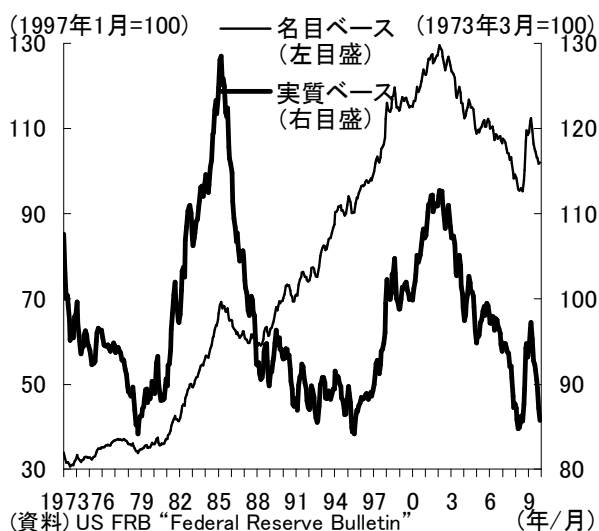


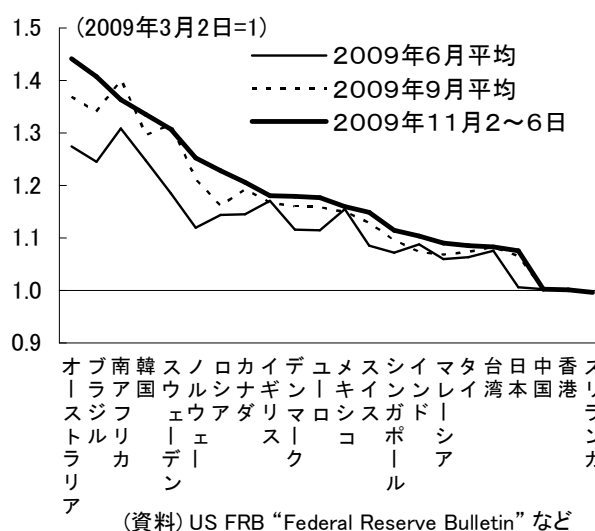
下落する米ドルと上昇する一次産品価格
～ 素原材料を中心にインフレ圧力増大のリスク ～

- (1) 本年3月以降、再びドル安が進行（図表1）。実質実効レートベースでみると、すでに既往最安水準へ。
- (2) 主要各国別に3月以降の対ドル相場の推移をみると、上昇幅にバラツキ。事実上、ドルペッグ政策を採る中国や香港、スリランカなど安定して推移する国、日本や台湾など小幅な上昇にとどまる国がある一方、オーストラリアやブラジルをはじめ、半年で4割と大幅に上昇した国も（図表2）。
- (3) そうしたバラツキは必ずしも成長力格差に起因せず（図表3）。例えば、2010年に向け、引き続き高成長を持続する中国やインド、スリランカの対ドル相場上昇は限定的。
- (4) 深刻な先行き懸念に伴う大幅安の反動で、3月以降逆にウォン高となった韓国を除くと、総じて資源国通貨が対ドルで大幅上昇。従来のドル相場と一次産品価格との関係に即してみると、今後、一次産品価格が一段の上昇に向かう可能性（図表4）。その場合、資源国通貨に一層の上昇圧力が作用し、アメリカ国内では素原材料分野でのインフレ圧力が増大する懸念大。

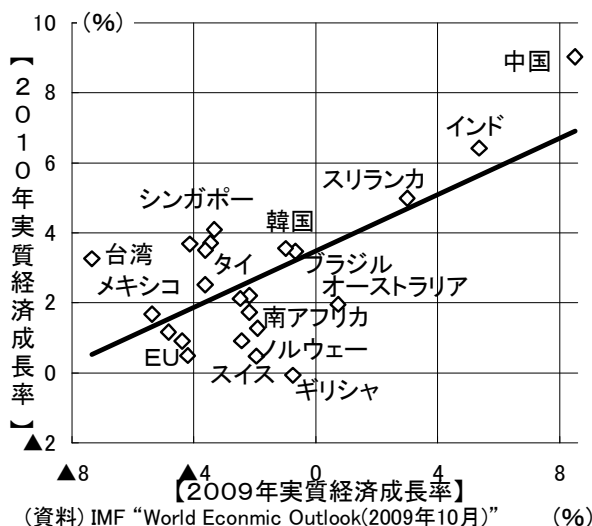
(図表1)米ドル実効レート推移



(図表2) 主要各国通貨の対米ドル推移



(図表3) 主要各国の実質経済成長率(IMF見通し)



(図表4) 米ドル実効レートと一次産品価格の推移

